# 01 豊臣秀吉とはどんな人物か

## 低い身分から天下統一を実現した武将

豊臣秀吉（1537年ごろ～1598年）は、もともと農民の出身と伝えられています。織田信長に仕えてその才能を認められ、信長の死後は力をのばし、全国の大名を次々とたおして、1590年に天下統一を実現しました。

秀吉は、身分の低い出身でありながら、努力と工夫で大きな力を手に入れた人物として、今も多くの人に知られています。



豊臣秀吉（想像図）
天下統一を成しとげ、関白にまでのぼった。

## 秀吉の基本情報

**生没年**
1537年ごろ～1598年
尾張の生まれとされ、1598年に亡くなった。

**関白に就任**
1585年
天皇から関白に任命され、政治の中心となった。

**全国統一**
1590年
多くの大名をたおし、全国をほぼ統一した。

**農民出身と伝えられる**
もともとは農民の出身と伝えられ、身分の低いところから出世した。

## 有名な逸話 信長の草履をあたためた話

まだ身分の低かったころ、秀吉が織田信長のそばに仕えていたとき、寒い日に信長の草履（ぞうり）をぬらさないように、そっとあたためておいたという話が伝えられています。
この話から、秀吉の気くばりや、主君に対する忠心のある人物として知られるようになりました。



**これは伝えられる話です**
この話は、当時の記録にくわしく書かれているわけではなく、後の時代に伝えられた逸話です。しかし、秀吉の人柄を表す話として、広く知られています。

## この単元で学ぶこと

この単元では、豊臣秀吉がどのようにして力をのばし、全国統一を実現したのか、そしてその後どのような政治を行ったのかについて学びます。

1. 秀吉が力をのばした理由
2. 全国統一までのようす
3. 秀吉の政治と社会の変化

# 02 本能寺の変から関白・太閤へ

## 織田信長の後をつぎ、全国統一へ近づく

1582年、京都の本能寺で、織田信長が家臣の明智光秀におそわれて自害するという、本能寺の変が起こりました。

この知らせを聞いた豊臣秀吉は、すぐに軍をひき返し、明智光秀を山崎の戦いで破って、信長の後をつぎました。

その後、秀吉は、ライバルたちを次々とおさえ、1585年に関白となって、政治の中心に立ちました。1590年には小田原攻めで関東の大名を従え、全国統一をほぼ実現しました。

1591年に関白の位を息子の秀次にゆずった後、秀吉は太閤とよばれるようになりました。



山崎の戦いで明智光秀を破った豊臣秀吉（想像図）
すぐれた判断力と行動力で、信長の後をつぎました。

## 秀吉の歩みと主なできごと

| | | |
|---|---|---|
| 1582年 | 本能寺の変・山崎の戦い | 織田信長が明智光秀におそわれて自害。秀吉は山崎の戦いで光秀を破り、信長の後をつぐ。 |
| 1583年 | 賤ヶ岳の戦い | 柴田勝家を破り、ライバルをおさえる。 |
| 1585年 | 関白になる | 朝廷から関白に任命され、政治の中心となる。 |
| 1587年 | 九州平定 | 九州の大名を従え、西日本の支配を強める。 |
| 1590年 | 小田原攻め・全国統一 | 関東の大名を従え、全国統一をほぼ実現する。 |
| 1591年 | 太閤とよばれる | 関白の位を息子の秀次にゆずり、太閤とよばれるようになる。 |
| 1592年 | 文禄の役 | 朝鮮に出兵する（最初の戦い）。 |
| 1597年 | 慶長の役 | 再び朝鮮に出兵する（2回目の戦い）。 |
| 1598年 | 秀吉の死 | 京都で病気により死去、秀吉の時代が終わる。 |

## 関白と太閤のちがい

### 関白とは

天皇の補佐をする役職で、朝廷から任命されました。1585年に秀吉がこの位になり、政治の中心に立ちました。

### 太閤とは

1591年に関白の位を息子の秀次にゆずった後、秀吉が呼ばれるようになった。よび名です。引退後も、実際には大きな力を持ちつづけました。

## 秀吉が力をつけた理由



秀吉は、もともと農民の出身と伝えられる、身分の低い人物でした。しかし、優れた行動力・人をひきつける力・政治のうまさによって、信長の後をつぎ、全国統一を実現するまでにのぼりつめました。

# 03 全国統一はどこで進んだ？

## 各地の大名をたおし、全国を統一した

豊臣秀吉（とよとみひでよし）は、織田信長の後をついで天下統一をめざし、各地の大名を次々とたおしていきました。

1570年代の山崎の戦いで明智光秀をたおした後、北陸、四国、九州へと勢力を広げ、やがて関東の北条氏をたおしました。さらに東北の大名を従わせ、1590年に全国統一を実現しました。

秀吉は、戦いだけでなく、話し合いや役職のあたえ方なども用い、多くの大名を自分のもとにまとめていきました。

## 秀吉の全国統一への進み方




## 主なできごと

### 1 九州平定（1587年）



九州の大名たちを次々とたおし、九州を秀吉の支配下に置きました。西日本の大半を治め、全国統一への大きな一歩となりました。

### 2 小田原攻め（1590年）



関東の北条氏を大軍で攻めてたおしました。これにより、東日本の多くの大名が秀吉に従い、全国統一がほぼ実現しました。

### 3 奥州仕置（1590年）



東北の大名たちを従わせ、全国の支配を確かなものにしました。
同じ1590年に、全国の大名が秀吉の支配下に入り、全国統一が完成したとされます。

## 考えてみよう

秀吉はなぜ、各地の大名をたおしていく必要があったのでしょうか。
全国を統一することには、どのような意味があったのか、考えてみましょう。

# 04 太閤検地・なぜ土地を調べたのか？

## 土地の広さと生産力を調べた全国的な調査

**太閤検地**（たいこうけんち）は、豊臣秀吉が全国で行った土地の調査です。田や畑の広さを正確に測り、どれくらいの米がとれるか（石高〈こくだか〉）を決め、土地をだれが作っているかを記録しました。

検地では、全国で同じ基準のものさし（ます）を使って土地の広さを測りました。そして、その土地の生産力に応じて年貢を納めさせるしくみを整えました。

この調査によって、土地や農民の情報が幕府（秀吉の政権）に集められ、支配が強化されました。

## 太閤検地の流れ

**1 田を測る**



全国で同じ基準のものさし（ます）を使い、田や畑の広さを正確に測った。

**2 石高を決める**



土地の広さや土地のよしあしから、どれくらいの米がとれるか（石高）を決めた。

**3 年貢を集める**



決められた石高にもとづいて、農民から年貢（米）を集めるしくみを整えた。

## 太閤検地のしくみ

**1 土地を測る**
全国で同じ基準のものさしで、田や畑の広さを測る。

**2 石高を決める**
土地の広さや生産力から、どれくらいの米がとれるか（石高）を決める。

**3 年貢を集める**
決められた石高に応じて、農民から年貢（米）を集める。



## 重要な言葉

| | |
|---|---|
| **検地**（けんち） | 田や畑の広さを測り、土地の生産力や持ち主・耕作する人を調べる調査。 |
| **石高**（こくだか） | その土地でどれくらいの米がとれるかを表す単位。1石は大人1人が1年間に食べる米の量の目安とされた。 |
| **年貢**（ねんぐ） | 農民が、領主や政権に納めた米。石高をもとに、納める量が決められた。 |

## 5W1Hでまとめる

| | |
|---|---|
| 何を | 田や畑の広さ、米の生産量（石高）、土地を耕す人を調べた。 |
| なぜ | 年貢をきちんと集め、全国の土地と農民を支配するため。 |
| どのように | 全国で同じ基準のものさしを使って土地を測り、石高を決め、帳簿に記録した。 |
| 結果 | 土地や農民の情報が政権に集まり、秀吉の支配が強まり、全国を統一した政治の基礎となった。 |

## ここがポイント！

太閤検地によって、土地の広さや生産力、農民の情報が全国で統一して整理されました。これにより、秀吉は年貢を確実に集められるようになり、土地と農民を直接支配する力を強めることができました。太閤検地は、全国統一を支えた重要な政策の一つです。

## 考えてみよう

なぜ、支配する側は、土地でどれくらいの米がとれるかを知る必要があったのだろう？

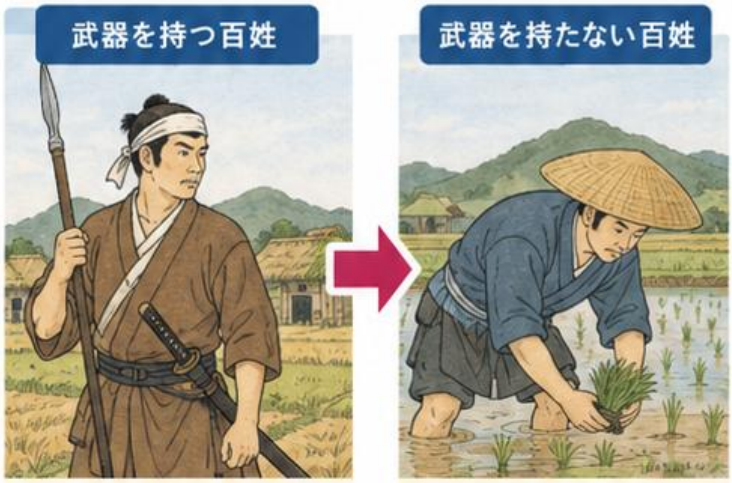
# 05 刀狩と兵農分離

## 百姓から武器を取り上げて一揆を防ぐ

1588年、豊臣秀吉は、百姓から刀や鉄砲などの武器を取り上げる「刀狩」を行いました。

それまでの百姓は、農業を行いながら、戦いが起こると武器を持って一揆を起こすこともありました。秀吉は、百姓から武器を取り上げることで、一揆などの反乱を防ぎ、社会を安定させようとしました。

この刀狩は、百姓を農業に専念させ、武士と百姓の役割をはっきりと分ける「兵農分離」につながる大きな政策でした。




## 刀狩と兵農分離の関係

**刀狩**
百姓から刀や鉄砲などの武器を取り上げる。（1588年）

→ **一揆を防ぐ**
百姓が武器を持てなくなり、一揆などの反乱が起こりにくくなった。

→ **農業に専念させる**
百姓を戦いから離し、農業に集中させた。

→ **兵農分離**
武士は戦いを、百姓は農業を行うというように、武士と百姓の役割をはっきりと分けた。

## 兵農分離とは

**兵農分離**とは、武士は戦いを行い、百姓は農業を行うというように、武士と百姓の役割をはっきりと分けることです。これにより、百姓は戦いから離れ、農業に専念することになり、社会が安定しました。




## 太閤検地と刀狩のつながり

太閤検地は、土地の広さや収穫量を調べて、年貢を確実に集めるための政策でした。
刀狩は、百姓から武器を取り上げて一揆を防ぎ、社会を安定させるための政策でした。
この二つの政策は、土地と人をしっかりと管理し、全国を統一した支配を強めるために、互いに関係して行われたものです。

## 比べて説明しよう

太閤検地と刀狩について、次の点をもとに違いとつながりを説明してみよう。

1. それぞれの政策の目的や内容の違い
2. 二つの政策がどのようにつながって、秀吉の支配を強めたのか

# 06 朝鮮出兵と東アジアへの影響

## 天下統一の後に始めた朝鮮出兵

天下統一をほぼ実現した豊臣秀吉は、明を征服し、さらにその先の国々まで支配しようと考え、朝鮮に兵を送ることを決めました。

1592年に大軍を朝鮮に送り、各地で戦いがおこりました。いったん講和が結ばれましたが、太閤の望みは実現せず、1597年に再び軍を送って戦いが続きました。

しかし、1598年に秀吉が亡くなると、日本は軍を引きあげました。これらの戦いは「文禄の役」「慶長の役」とよばれます。

### 東アジアの地図（朝鮮出兵）




※ 地図は、当時のおもな戦いの向きを示したものです。
国の形や範囲は、現在と異なる場合があります。

## 朝鮮出兵の流れ

**1592年 文禄の役**
豊臣秀吉が大軍を朝鮮に送る。朝鮮各地で戦いがおこり、戦いは長期化した。

▶

**1597年 慶長の役**
いったん講和が結ばれたが、太閤の望みは実現せず、再び軍を送って戦いが続いた。

▶

**1598年 秀吉の死・撤兵**
秀吉が亡くなると、日本は軍を引きあげ、朝鮮での戦いは終わった。

## 戦いの結果と影響

朝鮮では多くの人々が戦いにまきこまれ、町や村が荒れ、たくさんの人が命を落としました。また、日本でも多くの武士や農民が戦いに動員され、長い戦いは人々に大きな負担をあたえました。秀吉の死後、軍が引きあげたことで戦いは終わりましたが、東アジアの国々との外交や人々の生活に大きな影響をあたえました。


朝鮮の町にせめこむ日本の軍（想像図）

## この単元で学ぶこと

この単元では、朝鮮出兵がなぜ行われたのか、そのように進められたのか、そして戦いが東アジアや日本の社会にどのような影響をあたえたのかについて学びます。

1. 朝鮮出兵を行った理由
2. 戦いの経過と結果
3. 東アジアへの影響と人々の生活

# 07 茶々・秀頼、そして豊臣家のその後

## 秀吉の死後、豊臣家は弱まっていく

1598年に豊臣秀吉が亡くなると、子の豊臣秀頼が豊臣家の当主となりました。秀頼はまだ子どもであったため、母の茶々（淀殿）が支え、豊臣家を守っていきました。

しかし、徳川家康は力をつけ、1600年の関ヶ原の戦いで西軍に勝って、全国の実質的な支配者となりました。1603年に江戸幕府を開くと、豊臣家の力はしだいに弱まっていきました。

そして、1614年の大坂冬の陣、1615年の大坂夏の陣で徳川軍に攻められ、豊臣家は滅亡しました。

## 豊臣家の人々の関係

**豊臣秀吉**（1537年ごろ～1598年）



天下統一を実現し、豊臣家の基礎をつくった。

夫婦

**正室 ねね（寧々／北政所）**（1549年ごろ～1624年）



秀吉の正室。秀吉を支え、のちも豊臣家の人々を見守った。

**側室 茶々（淀殿）**（1569年ごろ～1615年）



秀吉の側室。秀頼の母として、豊臣家を支えた。

**子 豊臣秀頼**（1593年～1615年）



秀吉の子。秀吉の死後、豊臣家の当主となったが、大坂夏の陣で滅亡した。

## 豊臣家のその後の主なできごと

**1598年 秀吉の死**
豊臣秀吉が亡くなり、子の秀頼があとを継ぐ。

**1600年 関ヶ原の戦い**
徳川家康が西軍に勝ち、全国の実質的な支配者となる。

**1603年 江戸幕府の成立**
徳川家康が江戸幕府を開き、武家による新しい政治が始まる。豊臣家の力はしだいに弱まる。

**1614年 大坂冬の陣**
徳川軍が大坂城を攻めるが、豊臣方はこれを防いだ。

**1615年 大坂夏の陣・豊臣家滅亡**
徳川軍が再び大坂城を攻め、豊臣家は滅亡した。秀頼と茶々は大坂城で命を落とした。




**ここがポイント**

**秀吉は大坂の戦いには参加していない**

大坂冬の陣（1614年）と大坂夏の陣（1615年）は、秀吉の死後に起こった戦いです。そのため、秀吉は大坂の戦いには参加していません。

## この単元で学ぶこと

この単元では、豊臣家のその後について、人物の関係やできごとを通して学びます。

1. 豊臣家の人々とその関係
2. 秀吉の死後の政治の動き
3. 豊臣家の滅亡と江戸幕府の成立

# 08 秀吉の一生を物語としてつかむ

## 農民の子から天下統一を成しとげた秀吉

豊臣秀吉は、農民の出身とも伝えられる、身分の低いところからのぼりつめた人物です。若いころは織田信長に仕え、持ち前の努力や工夫、人をまとめる力で信長の信頼を勝ち取りました。

1582年、本能寺の変で信長が死ぬと、秀吉はすばやく動き、明智光秀をたおして主君のかたきをうちました。その後、力をのばして全国の大名を従え、政治の中心になっていきます。

1585年には関白に任命され、豊臣の姓をあたえられました。そして1590年、長い戦乱を終わらせて、全国をほぼ統一し、天下統一を実現しました。

統一後、秀吉は太閤検地で土地の広さや持ち主を調べ、年貢のしくみを整えました。また、刀狩で農民から武器を取り上げ、戦いのない世の中をつくろうとしました。

しかし、国内が安定すると、朝鮮へ出兵（文禄・慶長の役）を行い、1592年と1597年に軍を送りますが、目的を果たすことはできませんでした。

1598年に秀吉が亡くなると、豊臣家の力はしだいに弱まりました。やがて徳川家康が力をのばし、1615年の大坂夏の陣で豊臣家はほろび、秀吉の築いた政権は終わりをむかえました。



豊臣秀吉（想像図）
農民の出身から天下統一を成しとげた。

### 秀吉の歩み（年表）

| | |
|---|---|
| 1537年 | 農民の出身と伝えられる |
| 1560年代 | 織田信長に仕える |
| 1582年 | 本能寺の変後、光秀をたおす |
| 1585年 | 関白に任命され、豊臣の姓を得る |
| 1590年 | 全国を統一し、天下統一を実現 |
| 1592年 | 朝鮮に出兵（文禄の役） |
| 1597年 | 再び朝鮮に出兵（慶長の役） |
| 1598年 | 秀吉が亡くなる |
| 1615年 | 大坂夏の陣で豊臣家がほろぶ |

### 暗唱の準備・5つの柱

**1 出世**
農民の出身とも伝えられる、身分の低いところからのぼりつめた。

**2 全国統一**
本能寺の変後に力をのばし、1590年に天下統一を実現した。

**3 政治**
太閤検地や刀狩を行い、戦いのない世の中を目指した。

**4 外交**
1592年と1597年に朝鮮へ出兵した（文禄・慶長の役）。

**5 豊臣家のその後**
1598年に秀吉が亡くなり、やがて1615年の大坂夏の陣で豊臣家はほろびた。

### 総合記述に挑戦

豊臣秀吉について、これまでの学習をふまえて、自分の言葉で、どのような人物だったかを説明してみよう。

**書くときのポイント（例）**
- 出世のようす
- 全国統一の意義
- 行った政治や外交
- その後の豊臣家の運命　など